

第13号

定価一年間300円  
組合員の購読料は  
組合費に含む



発行

檜山教職員組合

〒043-0056 江差町字陣屋町 86-1  
Tel 0139(52)0858 FAX (52)1490  
発行責任者 高橋 正人  
E-mail: hiyamakyoso@proof.ocn.ne.jp

# 「道独自削減の中止」、 「現給保証の廃止」と「退職手当の大幅削減」を行わないことを強く求めます！

# 道教委交渉 山場



年が明け、1月15日、道教委と道教組の間で、昨年からの積み残し課題である「道独自削減の圧縮・中止」と「現給保障の廃止」そして、12月に新たに提案された「退職手当の削減」について交渉が再開されました。

### 独自削減のこと

今年度一年間、4.8%の給与削減等で、本来支払われるべき給与の164億円が支払われていません。(教育部門全体として)当初、給与削減は、2006年度からの「10%削減」は2年間で終わる約束でした。しかし、その約束も果たせられないまま新たに2008年度から4年間7.5%削減されました。またも約束を反故にされ、2012

年度から4.8%、4.5%、4.2%の3年間削減提示を受けています。今までの経緯があるため、「その3年間の約束は守られるのか」と不信と不安を持つことは当然です。しかも、道独自の給与削減を14年間も続けていながら、一向に道財政の明るい兆しは見えてません。道債も5兆5千億から5兆8千

## 檜山から「怒りの声」を伝えます！

○ただいま56才。退職が近いのに420万削減はないでしょ。ずっとと独自削減について420万・・・今からじゃ手遅れ。どうすればいいのだろうと、ただただぼうぜんです。(50代男性)

○退職後の生活設計も立たない中、現在働いていても不安な日々です。明るい見通しを持たせて下さい。(50代女性)

○退職金を420万も減らすことは断じて許されません。(50代男性)

○退職まであと5年。子どもたちの学費、退職後の生活のことなどを考えると、ゾッとします。大きな不安ばかりで夢も希望もなくなりそうです。(50代女性)

○がまんするのにも限度がある

億超に増え、給与削減をしても、借金が増加しています。給与削減は、民間賃金の給与引き下げにもつながり、税収が減少し、さらなる賃下げというデフレスパイラルを呼び込んでいます。それは、いみじくもこの14年間の経緯が物語っています。景気に対して有効でもなく、働く者の意欲を低下させる独自削減は許されません。

### 現給保証について

この間、高齢層教職員に対して、再三にわたり給与の引き下げが行われてきました。30年

### 退職手当のこと

以上も献身的に働いてきた教職員に対して、約束されていた経過措置額を廃止することは許されません。北海道のこれまでの給与削減の経緯を考えると、国と同様には考えることはできません。2年間の独自削減で今年度退職の小中学校教員は440万円、高校教員は450万円も削減をされています。それに加え、さらに、退職金の削減など許されるものはありません。退職金削減の撤回を求めます。

○「公務だから我慢せよ」ということなのでしょう。結局は犠牲が犠牲を生み、負のスパイラルに落ち込むだけです。未来に拓かれた措置とは思えません。ご英断を！(50代男性)

○退職金420万円削減反対！！(50代女性)

○このような形でおろされることで、働く意欲を失わせ、将来の不安を感じさせます。(50代女性)

○現場へのあたたかい目配りのない仕打ち、しめつけの横行。方や見通しのない財政の肩代わりの押しつけで怒り！(50代女性)

○悪しきマネが得意な北海道。自分の姿を鏡で見られませんか？(30代男性)



「怒」の文字に「声」を

○道職員の給与削減によらない、道財政の健全化を強く望みます。(50代男性)





全体集會に参加する松尾さん・安里さん

# 教育全国署名国会議員要請に

(怒りの声表面からの続き)  
 ○給与削減によって、現場は意欲を喪失しきつています。これ以上の我慢はできません。教職員を励ます政策の実施を求めます。  
 ○我々が安心安全に暮らせる北海道にいつになったらなるんですか？(50代男性)  
 ○公務員の収入を減らしても、景気が良くなるわけではない。地方自治体の長としてしっかりと考えて下さいな。(40代男性)  
 ○希望を持てる施策を！給料を減らされたらやる気が下がります。(30代男性)  
 ○教職員が未来への不安を感じ、希望を失い、生活を思い、暗くなり、どうして子どもたちに明るい未来を語れるのでしょうか！(50代男性)  
 ○退職から年金支給までの間、どのように暮らせばよいのですか？退職金の削減に反対します。(50代女性)  
 ○給料独自削減を2年間も続け、その上退職金四〇〇万減になる？！おまけに超過勤務は見逃しているにもかかわらず、地教委からも補助をもらっていない。準公的な研究団体の推進のための業務が不適切！そして、犯罪者のような扱い。信頼関係はズタズタです。(40代男性)  
 ○人生設計がくるいっぱなしです。子どもの進学等で支出は増すばかりの家計です。子どもの夢までくるわせかねません。もっと想像力を働かせ、みんなに夢を抱かせるような政策を創造するのが行政のトップに立つ方々のお仕事ではないでしょうか。(50代男性)  
 ○十四年間ともに給料をもらったことがない。その上、退職金も…っていうことは、まさかないでしょね。(50代男性)  
 ○年金支給が六十五才からさらに支給額も不透明です。削減で社会の景気がさらに悪化するの明白です。(50代男性)  
 ○年々忙しくなる現場…なのに給料は減っている。退職金も削減となると、お金だけでやっている仕事ではないけれど、やる気の削減にもつながりかねません。(40代女性)  
 ○明るい希望を持って働ける環境を…と願っています。(40代男性)  
 彼の交渉状況を見ると、見通しは決して明るいものではありません。しかし、だからといって、何もしないということにはなりません。怒りの「声」を広げ、「おかしいこと

1月11日「ゆきとどいた教育を求め」全国署名集約集會が東京の星陵会館で開催されました。この日までに八三一万四六三九筆の署名が寄せられました。北海道から集約された署名を携え、松尾康成さん(厚沢部小)と安里朗さん(河北小)が参加しました。

二つした積み重ねがあるからこそ 厚沢部小 松尾康成さん

集會場所の星陵会館は永田町駅から歩いて10分ほど。辺りは物々しい警備で、国政の中心部という

空気が漂っていました。気持ちもピリッと引き締まり、いざ会館へ。全国からの参加者が集い、宮本岳志衆議院議員の激励を受けた後、会館のすぐ横にそびえ立つ衆参両議員会館へ移動しました。中に入ると高級ホテルのような広いロビー、8台もあるエレベーター。「これだけ快適なオフィスを構えているなら、さぞ立派な仕事をしてくるに違いない」と期待に胸を膨らませて、北海道選出の議員の部屋を回り始めました。

初めは一緒に参加した3名の方と行動していましたが、高教組の山田先生が「じゃあ、ここからは分かれて部屋を回しましょう」と素敵な提案を出されました。活動の時間があまりなかった為、途中で



一人から自分で部屋を訪問すること。松尾さん、安里さん、厚沢部小の代表として参加した。

昨年十二月に教育署名の北海道提出集會に参加させて頂き、檜山の父母や組合員の仲間達が苦勞して集めて下さった六千余筆の署名を含む全道から約六万筆の署名の山を見ました。安里本人だけの意見ではなく、檜山や全道の父母が「ゆきとどいた教育をすすめて欲しい」というみんなの共通の願いが託された山の重みなんだと実感しました。

署名の力って、やはりすごい！ 河北小 安里朗さん

今回、教育全国署名全国集約集會に参加させていただき、中心の活動となつた国会議員要請活動では、



参議院議員の紙智子氏の秘書の方と要請・懇談

北海道選出の参議院議員六名の議員部屋を四名で回り、「紹介議員になつて欲しい」と依頼しました。その際高教組山田氏が「このゆきとどいた教育をすすめて欲しい」という運動に北海道で約六万筆もの署名を集めることができました」と発言すると「六万筆も！」と応対された秘書の方がビクツと体が反応するのが伝わってきました。署名一筆一筆の力は非力かも知れませんが、それが何千、何万と集まると、国会議員といえども無視はできない、その託された願いが伝わるものだとここでも実感しました。

特に北海道選出の参議院議員の紙智子氏の部屋に依頼に行くと、議員室に招き入れて頂き、秘書の方が我々の要請はもとより、現場で起こっている少人数ができていない苦しみや高校での支度金制度の殺到ぶりなど実情をお話すると親身に聞いて下さったのが心強かったです。我々の署名の行き着く先が実感できて本当に参加してよかったです。